



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2008.8.29

No. 32 - 05

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan  
幹事会  
〒144-0043  
東京都大田区羽田5 - 11 - 4  
フェニックスビル  
TEL.03-5705-2770  
FAX.03-5705-3274  
E-mail:office30@alpajapan.org

# 7.27 航空安全シンポジウム 「日航ニアミス裁判 非科学的高裁判決を問う」

## 航空医学・法曹の権威も指摘

### 『最高裁で社会正義の実現を！』

2008年7月27日、航空安全会議・航空連・日乗連・全運輸の4団体合同主催により、東京お茶の水ビジネスセンターで開催された表記シンポジウムは、日本ヒューマンファクター研究所長 黒田 勲氏と元東京地検検事・元桐蔭横浜大学法科大学院教授 郷原 信郎氏を講師にお招きし、日曜日の午後いっぱいをかけ参加150名のもと、熱心なパネルディスカッションが行われました。

冒頭の基調報告では米倉弁護士による解説、「高裁の示す『正しい管制指示』とは？」  
「管制官には『RAの指示が予見できる』？」などの、高裁判決における特徴的な部分を、一審東京地裁の無罪判決と比較しながら、その非科学的知見を説明。

続く講演の部前半で黒田氏は「空中衝突防止のシステムデザインについて」と題し、『複雑で多様な機能によって支えられている航空安全は、フルプルーフ、エラートレラントの発想から相互にカバーしあう多重防護の考え方が基本』であり、「高裁判決は空中衝突防止のシステムデザインを無視」していると学術的立場からの、パワーポイントを使用した分かりやすい説明がありました。

郷原氏は、元東京地検に在籍された経験と、日本学術会議における活動を踏まえ、「これまでの航空事故における刑事責任追及と今後のあり方」と題し、『国民が求める安全・安心に対し、刑罰至上主義は事故の再発防止となりうるのか』という視点で、高裁判決の問題点を指摘。いかにして最高裁に正義を求めるかについては『非常に壁は厚いが、社会正義のためにも越えるべき壁』だとして『世論を巻き込んだ運動が最重要』であると述べられました。

2時間に及ぶ講演の後、安全会議副議長大野氏も加わったパネルディスカッションでは、これら3つの違う視点からの東京高裁判決への評価を、「判決の事実誤認（TCASの性能に関する誤解釈）」を加えて討議し、『事実誤認』があり『運用方式に不備があった事例』でありながら『日本の刑法上は個人の責任追及に帰結する』この判決を、最高裁に正義を求めて闘うことの意義として再確認しました。

